

議事要旨(4) 退職給付専門委員会における検討状況について

冒頭、都常勤委員（専門委員長）より、退職給付プロジェクトのステップ 1 の進め方と「退職給付に関する会計基準（案）」及び「同適用指針（案）」の適用時期を審議事項としたい旨が説明された。次に、前田専門研究員より、ステップ 1 の進め方としては予定通りとしたいこと、適用時期についても、退職給付見込額の期間帰属方法に係る適用初年度の取扱いを一部修正することを除き公開草案と同様にしたいとの事務局提案について、審議資料に基づき説明がなされた。その後、次のような質疑応答が行われた。

- ステップ 1 で B/S 即時認識を導入する場合に、負債残高の正確性や比較可能性の観点から、論点 4-2「重要性基準と回廊アプローチ」をステップ 2 で検討することに懸念があり、これまでにどのような意見があったのか質問があった。これに対して事務局より、割引率の考え方を見直すものの重要性基準を維持することに懸念があるという意見や B/S 即時認識しても重要性基準の適用下では本来あるべき退職給付債務とは異なるとする意見があった旨と、重要性基準の見直しについては P/L 上の遅延認識の取扱いと合わせてステップ 2 で検討することが妥当であると考えたとの回答があった。
- 個別財務諸表のあり方、分配可能額の取扱い、リサイクリング等、退職給付会計の見直しは周辺事項も含めて影響が大きく、かつ時間を要する検討項目が多いことや、将来的に IFRS のスムーズな導入も考慮すると IAS 第 19 号の改正の確定も踏まえた上でステップ 1 と 2 を合わせて検討してはどうかという意見があった。別の委員からも、日本独自の重要性基準を現時点で残す意味合いを再度考える必要があるため、ステップ 1 と 2 を合わせた中で検討してはどうかという意見と、ステップ 1 を進める意義が審議資料の記載内容以外に何かあるのかとの質問があった。これに対して事務局より、リサイクリングは IASB と FASB との間でも相違している大きな論点であり、検討に時間を要することが想定されるため、ステップ 1 で実現しようとする改善やコンバージェンスが結果的に遅れることになる点や、我が国での年金債務に対する社会的な関心に答える意味でも、ステップ 1 を進めたいとの回答があった。
- 開示の改善につながることは早く実施すべきであり、また、IASB の ED には合理的でない内容も一部含まれているため、まずはステップ 1 を確実に進めるべきとの意見がオブザーバーの一人よりあった。別の委員からも、ステップ 2 を含む退職給付プロジェクト全体の完了までには時間を要すると思われる点や、コンバージェンスしながらアドプションも視野に入れるという考え方に立てば、ステップを分けて段階的に基準を改正していく判断もあり得るため、ステップ 1 を予定どおり進めるべきとの意見があった。これに対して事務局より、それぞれの意見を踏まえて今後さらに検討したい旨の回答があった。

以 上